建建加透



発行所

北日聖徒

東京都

港区麻

布広尾町

十《

エズラ タフト ベンソン

末日聖徒イエス・キリスト教会

べ ン ソ 篮 ン 長 脖 老 大 会 ___ 行 (十月廿七日) を迎

浜 語聴 景 感 激 VC 华 5

にお 温朗 並に二人の令嬢 W を て ٤ **命嬢の** 機 L 徒 現かし、 7 会 大会を開 8 の目 を招 公務 以て北部極東伝道本部 エ ズラ・ を帯 侍 催し コーラス隊の合唱 して二十七日午前 び、十月二十七 7c ト・ベンソン 定刻アンドラス伝道 で 日午 等の後ベンソン長 + はベンソン長老及 ドラス伝道部長の司へ十時から千駄ヶ谷区は 前六時で 半羽 合 \mathbb{H} 老 び K E 心はその 民公堂 向夫人 到 政 公堂 着し 府

半散 して記念の 百 会した。閉ぐを増上に現 長老 乗り「さよなら」 念サ it 、会後、兄弟姉朱とうい 聴衆は全く感激に 酔う雰囲気 このうちい 聴衆は全く感激に 酔う雰囲気 このうち は悉く快諾された。インを乞う者、 大塔さしこ。 を乞う者、記念撮影を所望するなどさこれ、兄弟姉妹たちはベンソン 長老や、姉の 兄弟姉妹にちはベンソン 長老や、姉 7c と日本語で挨拶を た。 やがてアメリカ大便館、 投げ するなどはてしもな かけ 姉妹たちに午後十二時 炡 差し廻し がら 米軍

私 生は れ皆 た 兄 弟 か 龂 妹 产 です

ح D) Ø 仏の 心になが する兄 Ø 7 感 き 2当教会の中に有つている会員同志の音の真の精神に充ちてまなたティル 訓 ح をし t.s Ø して居 は 精神に 充ちてあなたたち本当に 喜ばしい ことであ ح h 0) ま 美 子。 V 11. 息日の朝 II ズラ 一分朝 福 あります。 B 音 フ に通つて な Ø ŀ 交りと兄弟の間 真 た たちの Ø 精 ンソ 神 居 に b ょ ます。 顔を 充 長老 ち

け

7.

ま

仏今

し ところへ電 し て た。 τ 祝福と挨 喜ん 私 私た居 す。私 には今朝、 拶とをよろしく伝えてくれるように」とのことでありま h をかけまし 位、 ま オ・マツケ 数々の証詞を伺い、 12 ഗ んの二三 日前ワシントンツケイ大管長の挨拶をあ 兄 たところ、 弟 妹と 大管長は私に て とくにあ 受入 が拶をあ n. 7 Ø D 灰 屋 美しい ・ C か 一 日 72 b たち 本から 音楽を耳 に の人をへ愛 大管 って 抸 に 0) È

すった ٤ 啓示 聖 祈 べ 約 楽 りて 0) のは 中で主は立 なり。 歌 ちの 佊 VI 次にのの らわ 礼 0) IL ように つて 頭の Ø 水に祝福 うち 悦びな V 仰 る Ø) を与えてその応 せになりまし 非 b 予言者 常に 然り、 大切 ジョセフ K 72° 丧 部 しき えと 分 を ~@ 江 者 泚 Ð して さの h 歌は 文 与えら ٠ ا 我 に 対 れ 義

(教義と盟約 第廿五章十二節)

赶 たは日た。動太す ずそ չ 少 4 切と 私な 動 本 ず 713 L 胺 n へ来た人 Ø 人つ 70 勉 を 私 は役 15 は、私が立 きる たち 食 -F は κ ٤ よつ そい 事. ろ ح 1:) 日 は私の D> 70 し IL ð τ たち どうし 私は歌 人に対して愛情を持ちつずけて居ります部アイダイの農場に住んでいた少年にしているととを本当に悟るとよいと思 H 13 6 τ 長 **力>** 膜 J) 時 の中で一番良い劇 5 L 湉 日一問 砂 して人があ) 精大根 今に 「本人が腰」 たものでし K 15 を唱い し渡つて、 āfi <u>5</u>: をしようとしたも るまで私 U) 楽を奏する人々が を下ろ π L 畑 で背 た。。私の父は、 ほど長くまたあ 7)> 45 して昼 は日本人に き手だとよく言つ 非 炒 ずけ 常に能 $\boldsymbol{\nabla}$ たと のでは 率よく Ł 私 n Ť 対 んをたべると が た つありな し ۲ 1.t t, にど動勉 7. U) そしてこんな 働いたも U) V) U) ・愛情を持ちったものです。 人たち 愛情 時ま かす 礼 拝 6 D は私の は私 3 U) D ۲. ф で TL U) ~C に 私し D> 大

5 h Ιİ 聖典に 球 O 霊とし li, iái 住 湘 が一つの 7. W [ri]-C じ父 V ると言つてあ な ſΩL る から万国 神 かゝ 6 生 J) TL ます。 民を造り た 兄 ij 12 妹 랓 た T) であ

でめ つて、 る いります。 であ 私たちが聖徒たちの間 ع りま えい との美しい 会員同 つて b 人 が に行くときどこへ行 高家の間 つて 柄こそ非常 b

すべて もみ つこと なり なつて居 3, た信 人間 ر ج 7. J') 八間とその天文なる神との間にいうち最も価値があります。 部の 等しく大切 U) J) ります。 h 計弾回の できる最 ます。 また主 栄光は英智 の 子 で あ供 すべ、 なも B ります。 た べて 14 も Ű) 人は Ifi をことごとく ではあ ありに T.T. て の 知他 財 たつ の言 識 産 値のある知識は、当教会の標の間の関係を知ることでありまた最も貴重な知識は、神をたつ知識は大切でありますが りません。 福 であります。すべて 音の ある知識は、当教会の標準の関係を知ることでありま 一葉で言えば 祝福 Æ -jįμ こと、 主は る すない 的 どの h 世 で ĸ Ø + るとも なつ 知識 よう < 光 训 を 5 Ł τ な 知ること VI 4人も持人 す。 足りま 聖 す 仰 F.L 必 べてに 典に 理 L

は IJΨ Щ が目的 がある。 :

Á Ħ 生 ح 5 (J) -3= Ħ アにとつて 的は結局に あると考 この上なく大切であります。私は、人生の何であるか。この質問に対する答えは、 Ź. たい 定人は間 ĮЦ

進従つのけ 7. 7. る つ ま って、私たち 歩に J. 7. 35 館が 別にこの人の場合に私たち 餇 の大目的の一つはこの肉の幕屋…- 肉体を得ることで入れ、この地球へ来る機会がある事を喜びました。従私たちは生たこの地球へ来る前に湿界に於てこの大は完全な喜びを受けることができるのであります。私たちは、い限を受けるのであつて、永久に結合した霊と体とが、映展を受けるのであつて、永久に結合した霊と体とが 觙 ##: Ιİ K. 米ます。 - j-て、永久に結合した。この肉体がなけれ っなわちつ 死 結合した鍵と体とがあったなければ、人間はそ な - 肉体を得ることであ事を喜びました。従つに湿界に於てこの大計けるためこの地球へ来居ります。私たちは、 ねば な 6 ます。 肉 体を受

> る る 7c ため、 do にこの地 す 球へ来ました。そして人 肉体を持つた 兆 た ŻΊ

問く守2 の親 る ح 生み U) 機の 貨榜 人生に 会 T, に私たちのでたもうた他 る力 を通 と性 える日 lt C* して *i*5 'n 他の子供たちの霊がて達成しているので 禰 **_j**-的がある た誘 うこと つて、 な 檖 計 7 会 闽 が 12 その目 一を持 玄 あ 壮. いつても たち 記 た す ۲, T, 日的を私たちは尊語りたもう天の御父を 72 を私たちは ďΣ 11 良 15 公人生 たち えることで でかります。 用意 私 が を送り たちは天の 713 する助 音の語 尊敬に値 ž ð 得 h J. 原則 け ること 功 をす する 41 H

びを受けるのであります。また、私たち於ける完全な喜びが得られるので、私ただ要な部分であつて、私たい は以上述べ行要な部分であつて、私たい は以上述べ行要な部分であつて、私たい は以上述べるために私たちの天父と協力をして居 つて、 受ける日の を 当教 栄 公会の (U) もつ全部の目的は、これら王国に私たちを高めるため を忠実に実行することによつて 以上述べた人生の四章の目 私たちはら で あ りま 方に将来そこで完全な喜びをたらはこの世に於て完全な喜 らの自的を人生に於て実行めの準備をいたします。徒 ず。 U) 御 計 jilij (V) 的な 人生に うない た

えて居りなす。 冨 で 男 なプログラムと人 女、 当する あ h 公会の目的と私 ます。 性格とその 従つて、 的は、真の男女すなれ私たちに与えることで が 完 当 生活に於て 全教会 となるために必要なすべて、公会は宗教と教養と働きに関 な わ 神 ち Ø のような男女を作っ信仰かり、立ち 造り上 の活る g J!非 iŤ たを与れて登 っること O) を あ る

ベンソン姉 す 他のものなけれ のはみな必ずつけ加えられると中の王国と神の義とを求めなくてはく今、私たちは今完全になろうと はならない、こして求めて しました。 7 そう V る

次第にす 貝い私人はたたっ Ŧ 国 から、とうするとこれのよう。 従つて喜り 成長し に達 は h する 0) て行 6 責 II にちがい 2 Œ なくて、 を持 を負つて 私 ح W Ŧ たちは あ とによって、 で 7 に りません。 働く人々を組 働 ス・キリスト き忠実にしてしかも 活動を始 また指導 at 働きと活 し仕 と活動とを通して、これらの人をは等者の地位をもつ 事 めることにより を 織 した団 教会 持 は 体ただ してつい 価 り してついに日の栄をは完全へ向つてもつ 機会を与えらい だ明 敁 B もよく成 h ₹ <u>ቴ</u> ば すかかり 長ら Ø)

學 ⑩ 界 中信 仰 OK 強く なった

ても 私 す るのかに が 訳を通いに於て Hi 世界中に非常な勢いで増し際、聖徒たちの強くなつたつた聖徒たち・・・・◎ ます。 [R 7. 信 いるごとに対ののと、数にな 着 於

までに で 語機 V た な でどの 度で 赵 聖は 会 通 語 徒 デ ゥ 蕳 で ンエマー オランダ、 で話 k に あ よう言葉が とつて大きな喜びであります とつて大きな喜びであります とつて大きな喜びであります とつて大きな喜びであります とって大きな喜びであります で 話 b カヘ あ 型能に話れ をし、 h U をし ませ b \$ フランス、 同 す。 h, たすばらしい喜びを考えていましたという言葉がむつかしかつたようで **卆をした事があり、** 時に三人の通訳を通 インランド語、デンマーク語これまでに多くの国語すなわ とん な時に b V.t たくさ ポーラン 私にとつ して話し ま ん た少くとも十一

の違 の F, 7. ことを話 たことも一度や ح た 才 ち TL す 彼 Ì 1 が ーストリヤ 私はこな通 ル 始 す かに永 80 7. 1. 0 Ĕ n 訳 U)

しか ഗ 精数がは 籄 K で 神 楽に 国 あ が 、ません。その時に、をするでありましようが、そってもります。いつの日か b を そ Ø) か私 それは純粋のアダ さ Ø) 感じ たち え Ł を伝えあ は み V うも な一つの ム語 。 う の 必 ず 共 7 福

妹 ちよ・・・・

とれ しあも としての責任と義 7. Ł 7 な また、私たちは、短いなたたちは福音なり)ますが、 会員の 言うことを たたち日本人の兄弟姉妹の います。 し ば誰も を許して下さい。)守るべきことを実行しない人は幸福にして下さい。教会の会員である資格にも充分幸福にはなれないということ た ち 12 許して下さい。 は ち らの人々 今福音 個にはなりこう格とを引き受けていても、で移とを引き受けていても、でれまで 務 しに幸福 一つであ 音を一点 会の を受け入れて福 中に 七の心の底では常に悩になろうとしてい行しない人は幸福で 一度受け入れる 方々は、 るという感じを って H V までに 音の 本中 る 常に その v では $\tilde{\sigma}$ をあ で 一 手と 教 のあることを認めてをあなたたちに注意 不幸で えを実 0 る 福 番幸 人 協 あり 音 音 を 心 一を真に一 ませ in 75 福 K i) L な ん ば 人 7 象づ 実行し n T し v でるああ 适 vľ 7 け納 会員 見 しすしかるな 6 出 る #L 於

す。従つて義のは富などのため どこにもありません。す。従つて義の道はすなわち幸ば見出します。このような人々 ために教会 福 か ら離れ はその心の底に於て常に不幸にてしまつた人々を当教会の中 韫 に 至る道であ たがその b ます。 後、 地 その 位、 他 で 権 力ま Ø) しばし りま 近

信な民で 多くの点で当教会の会員今ととで世の人々の目は 教神は徒 さて、この大 につけ であ 会の 古代 たちも Ł 仰 の聖徒 とに 教 KI る える る民 また に 音の 対して深く感 遊 V) 標 な た 神 八きな都の りしと言 ありませ 準を実行するならば、 につける特 ちに「汝 いました。 いました。 え特殊か 会と大きな国 'n 謝をしなけれ 1.I 当 神につける特殊な民であります。古代の教会の会員たちの上に注がれています。 あ しかし、 る な民であ 部分 。もしも末日型徒としてであると言われました。 民 がであります。私だちもまた神私たちもまた神 の 中にある当教 ます。 ません。これらの概なな標準しての、行殊な標準し 会の会員と 司 72 7 私課 使 き国 7c 徒べ 標と特準特殊 Ŧ, し 人 テ が Ø) *4 と殊な U

宗 教と 学も真理は 一 致 :::

E 7 教 えけ永遠の 真 7. 14 Ð 壮 必 利

去 伙 1): 7. ÷[... ÷ 自身と矛盾どう着するはずがありません。 か 先 会の 教えと衝突しようとも、心 教えはすべて 分 15 -6 E の真理を認め、 のよう **全**わ Zi. 幼 ずら しかも真 36 かずに か あつ

が衝 宗教と 学れ の理論 ٤ が 御突し、 知れ ئ. または 止 \bar{k} 科学上の真理と宗 教 l: Ø

しか する にして絶えず虎長しつつある真理の団体に更につけ加える方向 未来は Ļ ゆる新しい真理の発見 は はずがあい 、宗教で がありません。この事事を教の中にある真理と科楽する事があるかも知り 当)い真理の発見は福音と一致する方向へ進み、「教会の会員に対して何らの恐怖も持つており」りません。この事実は私たちに非常な安心感 科学 J) 中に ある真 理 な安心感を与る 埋とは決してで おりませ 夫 た偉大 へ進 کړ えま 徊

つて私 ます。 11 U) 兄弟姉妹たちよ、私は今朝あなたたちの時間を全じるなた遠に四重の希望を・・・・・⑩のなた遠に四重の希望を・・・・⑩のなた。 なりません。 姉妹たちよ、 **今朝**、 7、私はあなたたちに対し四重の希望をもつ私は今朝あなたたちの時間を余りに多くと

不 近 誕不正の中には少しも幸福がありません。まず第一、私はあなたたちが常に幸福であ やつて来ます。 ht ありませ h 幸福は救 V٦ Ø 計 画を実行することによつて貴 であることを望みま そして、 幸福に至る ず

ţ Ŋ <u>つ</u> τ. U) しやることを忘れないで欲しいと思います。 **企** 0 ď, T. 办 私、 何であろうとも、 た 主にむねがいをするように希望いたしま にはあな たちがどのような分野に入つて行こうとも、 10 た も が 私は Œ. M あなた iБ FC 70 たちが助けと指 たちの成 そして、 切を ず。 望 11示とを あなたた Ш C あ T. V 7:2 水

i, すべて 私はあなたたちがとの人ての中の最も良い四 たちが常に 自 の偉大な国の善良な市民となること、 働き手で 则 なくて z 一護することを希望しま はなりません。

> V.t fai Ø) 計 刲 的 11 抖 +110 1.1 Ei χı ij. U 'n

を受けるように希望します。私は今までに、あなたたちが幸福にな法律を支持し、あなたたちの諸活動を福音の根本原則によつて指導として、私はあなたたちが善良な市民になること、すなわち自由の を破 ると申しました。 るように、成功を収 ありません。 由 しようとする如何なる計 淽 潺 祌 従つて、との Ø 与えたもうた永遠なる原の一部分であります。 めるように、善良な市民になるように希 댸 画あるいは哲学も 大な国の市 則 民としてまた末日 Ç あ 徘 つ から 7. 人 Ø 甶 蓰

6 であ るものであります。 そこで第四に、 るように生活することを希望いたします。 なたたちに会うことができるように生きることを認 私 i.t ib K **7**こ たちがついに H Ø) をして、 米の王 国に 私もそと み且つ祈 高 δħ

⑩偉大なるおとずれ を世 K 亿 えよう:::

父な K 杠 に知つています。、私はこの事実を私り い私 ますが、 たちは、 る神と御 〈を私自身が生きているととを知つていると同様に確子とは真に少年予言者にお現われになりました。それはすなわち世界中に伝える音ずれであります。との世の人々へ伝えるべき非常に大切な音ずれを将 催

す。 道 後 岩であ ح 会とを与えられたことを心 ഗ 光栄に 世界に h. たちがそれを勇気に充ちて、 ますから、 すから、との音ずれを世の人々に伝える責任。起つた最も重要な出来事であります。私たち 充ちた示現 1.t 1: 1 に喜んで為すよう祝 エス・ 謙遜な心で、 + リスト が 榀 鮮 またその して 温し 下さ から V.T 72 あ * b 特権 V٦ h F.C 5 ŧ 亿

権でありました。 今朝今までとこに居りましたのは、 ととからあ F.C たたたち O) 私にとつて本当に お顔をのぞきこんであ

なたた is c 7, E U) 7L るよう私 [4] 枘 72 ひり を įήį が祝福 U) 交入 し D IL わりの精神が **7**7. まわ んこと が感 年がたつと共に成 放 至り C あ

h

仏 の証 (O)

して、火 リス 仲保 いで 者であり あたと 上 b います けもと ŀ 者 に 7-弟 が なります、 であります。 たちに次のことを証こそ私たちがたずさ ίL まし رت_ن ķji H から、妹よ、 の世に Σċ 持しその教えに従つたイ の風い主、 た、 72 70 私はこれらいことがなに於ける人間の救いに名 感謝と認遜な心に充ちて主イ また今もなむ、 何は私 7.1 K またジョセフ・スミス 私の証し 私たちの長 たらの霊 'n つて の救いに多くの力を尽しまし いたします。 をい 父兄であっ の父で 生 v ・エスー人 庁 る たします。 る神 みな真実で ϯ これはかつて生ける場ので父なる神と人 ib りまた の予言者であります。 ます。 だけを除 業でめつて、 ・エス・ かか、 あることを確 またイ キリスト 神は ŧ, 人との そい た。 神 ェ 生 この間は Ö きて 朝 *予問
そ言の 15 他 U) 私 ō μij 湖 13

Б. 七年 十月 tt ti 日 東京にて

に召さ 年ボイ 九 父が 一八年最事の傍らユタ州立農業大学に学ぶ。「一九三伝道に召されたので犯と波の兄弟で農場を経営する。九九年八月四日生る。幼少の時より農業に従事。十四 ス・ステー れ、英国 1 ・オワ 一九三八年(三十才)合主事に任じられる。 州立 ンソ 九四 -j-大学の奨学金を得る。一九二六年結婚。 Y M 長老略低 伝道 A_{i}^{z} 終了後B・Y・リに学び、 . :3 ì MIA会長。一九三三年アイダホ州 ステーキ部長に任命。一九四二年 一九三八年再びカルフォルニア大学 ッパ伝道。 一九五三年米国 侵秀な成績で卒 十'四 九三二 すの 4F. 14 莳



池上 ħ 洪

伝道部長メツセージ

1 I ス 一人の + リス 誕生日 トとジ を迎 えて: 3 1 フ ス ? (<u>(</u> ス

伝道部長 ポール C アンドラス

としているようであります。今や終ろうとする年に起つた敵々の出来事をつらつら考えさせようらう当の理由で、十二月という月は私どもすべての者に立ち止つて、行てうとしています。またもう一つの年の終るのを合図していると、またもう一つ十二月がめぐつて来て、またもう一つの年が暮れて、またもう一つ十二月がめぐつて来て、またもう一つの年が暮れて

望や経験をつらつら考えます。と、私たらは自然に新しい年ととれから新しい年がもつてくる出来は、私たらが過去の年 に経験した数々のことをふりかえつてみると

はつきり して視う 原中十二月の十三十八の方の誕生日を祝らからであります。 イエス・キリスへの方の誕生日を祝らからであります。 イエス・キリス一月にこれまでこの地上に生を受けた治の中で一帯偉っ月にこれまでこの地上に生かり 意義があります。 スト 一月の スト は十二月の廿五日でなくて四月の六日にお生れ 示されていても、 6 に の誕生を祝います。ジョセフ・スミスに千八 生れまし 廿五日にお祝い ヨセフ・スミスの た。 それであり 当教会もやはり十二月の廿五日にイ します。近代の啓示によつ 第百五十二回目 イエス・キリスト ますから、 の誕生日 本年は 大であ そ K なつたと 百五年の 7. Ø 当教会 のつたニ を記 1 涎 ح ェス の 十 生 工 h.I 忿

て、知

いることは、

本当に感謝すべきではありませんか。

中で最も偉

大な知識、すな

から救いの計画の知識

をめぐまれ

Sても、またその誕生日が各国の民の中で非常に広く記念して祝わ救い主がベッレヘムでお生れになつてからほとんど二千年たつて

ح 0 ません。 滅の体を受けるということを何人が自覚していますか。また贖罪に れらのことの知識にめぐまれているのであります。 を得させたもうことを何人が自覚していますか。 ことのある人は一人のこらず自由に価なしに賜物として完全な不死不 イエス・キリストの鼠郭と復活とによつて、この地球上に住 粃 てが 上 全 U) 記の事実が本当であることを知つている者はきわめて僅かしかあり いよ |人が自 [II] の出 な体を有つた復活者として現在真実生きたまい、 ・エス・ しく統治したもうことを何人が自覚していま すか。 何 禰 て、あらゆる賜物の中の最大の賜である永遠の生命を受けることつてイエス・キリストがあらゆる人々にその罪悪と欠点とを収除 エス 地 人あり であ もなくこの地球に帰りたまい、そして世の国々と万国の民とを 球上の何十億というすべての人々の中で、 米事 実際に末日聖徒イエス。キリスト教会の良い会員だけかこ るととを何人が自覚していますか。イエス・キリスト 覚していますか。 まずか。イエス・キリストが権能と大きな栄光とをもつ していますか。イエス・キリストが、旧約聖書のエホリストがこの世界の創り主であることを他の人々の中 を坦当して おいでになる事実に気がついている他の人を でめるかについて何 イエスが 何著 不幸なことに、上 私たち、 で お また今と ませ があらゆ 75 Q) だと 拽 る 霓

ス ミスのことを聞いて知つている人々の中で かれが創世の前からスミスのことをこれまでに聞いて知つていますか。またジョセフ・スミスが何を為したか知つておりません。世界中の何人がジョセフ・4はまだジョセフ・スミスがどのような人であるか、またジョセフ・人類の救いのために尽しました。それにもかかわらず一般に世の人共りもキリストを除いて、この世に住んだことのあるどんな他の人よりもジョセフ・スミスは、かれが礼拝しその教えを呑じたイエス・ジョセフ・スミスは、かれが礼拝しその教えを呑じたイエス・

大会の方に表が行き たいまつの二つのもえ 八 十七 型見者によらずに知られ 型見名によってとれて ギリストにより生れ たいまつの二つのもえ 八 十七 型見者によらずに知られ 型見名によってとれた 温を溜ぎし続式のため 型約のため店 一一つの様 一つの子 との名は音像なる面間 その名は音像なる面間 大穴の気に変り たいまつとり者 大の方に飛び行き たいステナの全国よ パーロの芽 かの人での気に投げ落される サニ 十四 教の 御田 大の 一つの水道なる神会の三 水道に一つの神会をなす 十八 十三 対形眼鏡に似たる一つ 弓形のものについて はっとを得ず かい人 水の両中に宿る これらの人々を感動させ たとを得ず かいかる人々の胸中に宿る これらの人々を感動させ たとを得ず かいかる人々の胸中に宿る これらの人々を感動させ たとをして かれに対して かれにはあして がいかる人々の胸中に宿る これらの人々を感動させ たとをして かれに対して かれにはからの弱点に かかる人々の胸中に宿る これらの人々を感動させ たとなし、もし人われには変した。かれはかれにその弱点で ならにはとなるにより、かれらがわが前にへりくだらもにはめ なるできない (以下続く) たんでは、かれらは次らの弱点に がなるでは、方のよりな音楽と変との三つが人をすべての表のぶ点 なるがれに考くものについて たんで 大き できんに は り なる は と を なる に よ り 、かれらがわが前に へ りくだり むれを で ならがれて 大り に で ならがれて 大り に で ない と で と で で と で と で と で で と で で と で で と で で と で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で と で で で で で と で					•																	· . · . •									
世	<u>.</u>			_				1				州	•	/	- 川	- <u>J</u>	ト 七 一 ブ	十六六	H U	- 11	廿四		-	- t f	- \	十九	十八八		+	十,	
数の行			十九	卅五	廿 八	壯 六					•	1	•	ر ار	<u>pr</u>	I PL	十 1 カ	十六	力 •	. 十 九	十五五		1		廿.七	: 六	十九		<u>po</u>	廿九	
	と硫黄との	るに速きものにして	れながらの性は神に	父	強 (五)	塩 (十六	主(十七		とを得	かる人々の胸中に宿		つの永遠なる神会の	•	の形を現するを徴と	の小羊(七)	礼(十)	に減びし方の者		ーペリシテの全国	穴の石に落つる者	の傍に投げ落さ	西の方に飛び行	リシテ人の肩に乗	つの棒	を灌ぎし儀式のた	の名は奇偉なる顧	寄		明の二つの	の仔	
五 七 数等は制リストに生れて キリストにより生れ 八 十七 聖見者によらすば知られ 聖見者によってとれ 八 十一	える硫黄の	ってんだんりもの	欲に逆ろ人は即の敵	の餌		みたま	主	;	ことができない	れらの人々を感動さ		遠に一つの神会をな		が下るよう	子羊	テス	人	しい霊を持つ	レスチナの全国	の底に落ちる	なの底に投げ落され	おそいかかり	の方ベリシテ人の	つの芽	約のため	の名は霊神ブ指導	しい霊を持つ者	L	いまつの二つのも	が	
十四 幾千人生でも																				廿五	廿三	十八	十八	十五五	十三				八	Б .	
全ることも之に由て知ら、知られるのであってとることも之に由て知ら、知られるのであっていまでも、(前出) (前出) (対策) (以下統() (以下統()) (以下统()) (以下统	わめ れさ にせ	にはそ	授くる	与うれ	認めさせ	るとな	。 る : 化	なる者					<u>卅</u>		+==					<u>+</u>	十四四	+	九	一 孔 五	十四四					七	
たいたいない。 大によってないたいない。 ためれたののではいれたののではいれたののでは、これであってないであっていたがれた。 ものではいれたがれた。 ないであってはいるがいた。 ないであっていた。 ないであっていた。 ないであっていない。 ないであっていた。 を下しばらればいる。 ないであっていた。 を下しばらればいる。 のののではいる。 のののではいる。 のののではいる。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りないであっていた。 知りない。 知りない。 知りない。 知りない。 知りない。 知りない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知らない。 知りない。 知らない。 知らない。 知らな。 知らな。 知らない。 知らない。 知らない。	ありなることを放え示仰と希望と愛との三つ	弱きを強きに変えん。わ	より、かれらがわが前に	すべて わが前にへりく	ん。見よ、われは人を諒	し、もし人われに来らば	くる恵みは充分なれば、か	あさける。されと後になり	いいけいによること		下続		る望ましからぬ	にはめ	形眼鏡に似たる二つ	,	るる不幸の	を極めて罪の綱目に		への福利のため	師	礼	の	(治出)	干人まで		7	ることも之に由て知	見者によらずば知ら	はキリストに生れ	
	アヘ	ハ	りわ	者には充分わが	するために人に	オれはかればその	れらは汝らの弱点	て悲して、ままが	ことのことが				のような階級の不	二つのわくに ほめ	形のものについて	幸な有様	を飲まされる思い	の縋目にしばられ	って	も霊もどうなるか	会の指	プテス	の 羊 の		干万人まで	ない。	見者でなければ	られるのであって	見者によってこれ	リストにより生れ	

なるれれに述くすのなることを粉え示 さん」イテルは、第一分 か人をすべての義の源し、人をすべての義の源には光分われを信すりれたを信す われはかれにその弱しれらは汝らの弱点にしれるれが縁

仏 本 t h

ジジレブクロ転 イル 1レエ任 フ 1 IJ ッに プキャブ 1 ズ 1 1E 本 " 本 旧

1

y

3

-t

ル

かばブ

ズ

が長長

長老老

ゥ

ブラ M デガロデト 3 3 1 ン トン 汐 イン F ッ パェス 1. 3 キ ス #

-y•

スピ

1

朩

攴

マキ遺勝

芝 姉 姉 妹

- 739 任 -

藤田

1 0 I

21 ル 1 部

京

ノ 1 ル ブ ス 朩 ₹ ナ IJ

ピ 1 ٠4 本三概名広三四岡仙東名阿 名岡東橫阿新名 古

の 古 の 京古部 宮西屋島宮形町台中屋野

ル

ジ IJ

ツ

Ī

ス

1

15 屋町中浜野潟戸 竹西加松宫富小阏近沖田平中中岛板栏板 浪山谷本部岡林本藤野口岡村村本倉倉倉

11

古古古古。

節正陽藤てと雄悦美弘光千宏静千秀幸東 代

一子吉子ラ子子子子子子工傷樹子夫 室室室室室岡岡柳柳柳広広広広名名名名 閱閱閱閱聞町町井井井島島島島陸陸屋屋 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支 支

部部部部部部部部部部部部部部部部

V

ジジレブ新デMロウロ任

1

ス

E

到卜

ジ

ナ

ル

IJ

アド

テテ

11

フル

」ジ

スオ

ッ

ス

شوز ッ

宫支支

部部

長長

名员三新帅

古浜の湯台

ム

才

水ド

ゥ

エ

ル宜

ス師

1

₹

12

1

l

ズ

リボ

スヤ

I

1

コンプ

ズ長長長長

ン長老老老老

キ

ズ

神者故、 のはに Ŧ 誰の 国 re xu てを も 信 tr枚じ わて C ع るべ ベブ を しアス る 老 かマ かを る受

明でヒ林

デ

Ĭ

1

ル

長老

音

報

た行紙て九棚 深い中 部も弟テ任定判部八支と思いる者等の日部 の日部 、徳伯かのせ谷便重原、カ 野静て云ル 、をのうス さ妹の れの誕岡知会名長 参誕生本ら員前老 列者も同いの介含ない。 の小さないの発案に と活なに 同四二 な動機よ 様日日 関っ

ここが ろをはかく とコル兄 M の受いた!!! 実 タネガー たルりし十 はかく、たルリレー、ペッカーバー事を「月井、な地十悲ス米で一送いつ川バー事を「月井 7 広神方月喜長任下ケ別感れ兄ブ貴予創支十子皇の部士とその11日 チの趣る曜ゥ受セヤ写味と学オけン 日スをヤ長と賀味で重原 瀬ンしのと校ルて長、キ視ン老し会う挙広姉沖助べとヒ戸セ方展が、七終老変ヤしセのて、。行姉妹野節て云ル の部キて ン送大へ 7 来助 し管太会の長別い十年に協村に理会を会老会に月の会上。下の盛との。苦二 会等のいた苦労し、高崎支に、一下、各会の歓迎会との、一下、各会に、一下、各会に、企業の、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会に、一下、各会等のい 歓高労日 催重会支部 いの協会 ろ訪会を をしな い門で豊崩たっ ヒよ動

実クス弟エ助介 の 川ンよ示出扶シ 姉両り会来助妹長現、た協 展妹長現へ さらのの十 れ活写実六 真演旦 た花 日の説 本説明

1 2

を過させた。朝鮮各地の名所の絵はがきは異味満点の時間

バプテスマ、好天気に恵まれた黒島海岸で



で按 等礼 沖 すを覚える。 にがあり、岡本 Ä 各 Lij 姉妹が誕生さ をは \mathcal{F} 掘 idE に信仰のい iL る 地

稲刈りをする。 稲が順調に成長したので長老を先頭に楽しい教会堂の敷地を持っている。との春植付した 稲刈(二十八日)柳井変部では幸いにして

名古屋支部の集い深い感謝を捧ける。 (岡本友江)深い感謝を捧ける。 (岡本友江)間上の収穫と質の好さに支部の者一同神様へ以上の収穫と質の好さに支部の者一同神様へ

に行かれました。出席者は三十二名ばかりの短期間の伝道でしたが今度山形支部を行いました。ロー長老は当支部には二ケ月を別会。十月廿三日の夜ロー長老の送別会

妹が生まれました。 と受けられました。そして又小さい兄弟姉 でを受けられました。岡本姉妹は一年半の間よ が誕生されました。岡本姉妹は一年半の間よ が誕生されました。岡本姉妹は一年半の間よ が一年半の間よ が一年半の間よ

審査員を選び、一等は中の展示品が集り、MIA 念品が 染 1 M トとして果物とクッキーで楽 I ス、二等は まし は柳 の趣味の展 ズミの生物でし た。傑作の出品はロー長老の犬、田姉妹の生花となりそれぞれ記 伊藤姉妹のノレンのローケツ MIAの会員外より三人の 示 中島姉妹のテーブルク 力をいたゞきたくさん 会。十月十 た。 IJ フ -[: い有意義 レツシュ H M IA

会。十一月五日の夜支部長ビーマン長

にて福音研究会会を組織され、 の汽車で名古屋を去られました。十四名、ビーマン長老は九日の朝四時五日 をお ら送 導き下さ 日 1本を去られを行いまし V 会として我 ました。 日曜日の夜は 亘る間 との夜 初等協会、 K る の夜の出席者は五に良く神様の仕事 ファイ アサ 系図 委員 Ĺ 〇分 1 F

する事が出米ました。を微浜支部より当支部支部長としておむかえ新支部長。十一月十一日にオースチン長老

節子姉妹司会により家庭に於ける協会の特別プログラムを行いまし扶助協会。十一月十日の聖餐式する事が出来ました。 の導きをいたざきよれぞれの立場に於ての人木沼慶子姉妹、日切てのテーマにより、畑 賀 中 姉 妹 ました。 妹 妹 会長は 扶助協会の役員は会長、 社 功協会の役員は会長、八木沼節子たゞきよい聖餐式を持つ事が出来すれた。 教師は福音、 日坂繁姉妹と伊 木沼慶子姉 の 坂忍兄弟、 柳田藤吉兄弟、 お話 松浦姉) 聖餐式 があり「みたま」 いました。 妹 る神 妹 成田姉妹とそ C の後 福者とし 八木沼 H K 如妹 扶

(松 浦 美代子)

独 1 生 ょす ので夜七時なシン長老が東京中 テイ みました。 田 を開きました。 合唱等の楽しいひとときを過 二旦 **小中央地** からささや 方部 ぬりがあ かなサ įį K 転 つったり、 し ∄ ナラパ 别 K れを なり

京谷原子姉妹と中沢やえ姉妹のパブテスー

ゥ ŋ ェけ V 子 l F が アス た (廿五日) テ V ッ たし ル テ 長老 ス まし が 新た 会けら 17 Ħ 忆

聞ジ 1 ヤド M ts コ Ι • ン A 出 サート シヤ È ートを開きまして富岡楽器 ン等々、希望の中間をました。クラ 店 Ø 後援 クラシ 山を K シック、コ ょ 選集めて

b

後*栄さ部か夫月神に*
六ダ子れのら、に権参神 中でました。 東京北支部に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってから田中英に入ってが出る。 、に権参加 部時ン姉で神ず マ 芗 繁かなに の兄弟は、正寺には常時には常時に 、い下に活 田期が 中待支遠 く

Ø た 考 1 肞 支 楽し IJ ・リスマスの月が参り ・リスマスの月が参り ・から代々木文化会館で開きました。他 ・ルら代々木文化会館で開きました。他 ・バーティ。予定通り十一月十 ス ちは 相 談を重 ねて 居ります。

Ø 宗会 (十月十六 す 者が持参 展示 Ł 觀賞 旦 L た写 梅 - 真切手、 叉写真の 兑 弟 司 エ会

> をす ラそ ۴ IJ ス いただ たき楽し メ

七 Ι

有坂兄弟/梅津兄弟は当支部かー神権授与(十月/十七日)支のみたまにみたされつつ終る事のみたまにみたされつつ終る事いコード鑑賞をいたしました。

ぁ

り

来

す

司 として 按手壆任され支部の者一同心よう (十月)十七日) 支部大会の与(十月)十七日) 支部大会の よての の当 b 喜祭日

方 松 (同) 海津兄弟 より侵礼を受 分四ら名 Щ Œ れの

で今年に入って十二執事の資格を与え

扶 崎 役 人。広田姉 数指。 動揮副 全

欠を M 生 で 奖 K 其 回目 を授与せられ執事とがなり書びにた な 良 含 背 は共 华

楽出阪 ŧ M I 味は 不を表われる 兄弟の 説の オ し又、数鉛筆画 出 1 ッ ら押音々 4 ナ れ絵 姉の 展イ 観の 額 共 ゅうの 七 事 夜な て音楽

																	`									
	か 必 ÷	でコーラス二番と交えて近くつ寅弟香では財産のみのので、フンバーに依着特別プロク	市協会のよりはレベニュスの専門で「グート」には「登皇」の後の民間を終一民間(全	「リリ里ズラング)手間「ジー手間」を	笑いのう(をまきて、楽しき)時を過	づつで食事を共にして、新らどいゲ	会メンバ上にてグーティーを開き、各自	パーティ。一十一月九日。午後六時半より	しを五人の参加者より立く、	催され、ベンソン長官に逢いたる生産	十一月三旦、午後六時半よりファ	金八百円也を建物改造資金に	回収は多数参加者を得て良好の成績	日曜学校会長役員発案に依る十月中行事	供日曜学校の副主任任命/	兄弟を年少会員級の教師、前次信子姉妹	師任命。 十一月三月、計画会に於	ら久しぶりの歌劇を復て満悦す	た一行十三名のピグニンク、机僧の雨天	られる遠藤姉妹と勝田姉妹と長老二人	お子様づれの姉妹と解任なされてハ	扶助協会主催にて宝塚へ行	妹。	プ安医、中川、田子、直寸引角及以邦東京プラー四四家舎」と五名参加する	東京大会へ出席。ベンソン長	冨岡康兄弟、小林雄子姉妹誕生せらる
			1			.	,											<u>/</u>								1
		╀.	1				_			ر	7.	-	云	書	: a		/ 日	1	? ? ≥	五	i hī	_	ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ			.]
4		1			لممي	part.			And the second	P. Park	.11	1.2	ы	E3		_		,	7 p	7	צעיו		N. A.		1	
		335		شا	Æ	ماد	- X -,-		**	1	(1	. átí	/	p. Market	L	<u>. m</u> t					3	Oʻ	0		Į
		Ŕ	1		_ آ		/											<i>Y</i>)	•	j	<u>, </u>	່ ອີ	77	-O		
				Ţσ	11/	,=tc.	feet.	J	(200		へ			-)	•	j	•	į	100	س.	-	T	
		4	L	ø)	ょ	Эŧ	Ł.	*	₹.		HITE.	-	12	. 701	•	•		_			/ .	K	// ()	Ń	drie.	
1	į	古	1	1弋		0		便	,	徒	•	•	•	•	•	•	•	•	2	•	/	/ _ 1		0		Ĭ
		找	-		の				JŲ.	典				•	•	·	$\frac{\cdot}{f}$	•	-			ئے۔ 1	<u>6</u>	<u> </u>		
		1	- 1	•	長	i	•		1		I.	بيد		•	ſ	•		Ì		1	·ſ	. 1	ſο	0	TH	
	1	1	•		省	Ī	1		- 1		- 1		- }	-	la	Ħ		•	•	1.	Ì		2	5	H	
ļ	į	1	1		会	ì	Ī		1	пн	17		110	٠,٠	T.	Жij) •	•	•	•	1		5	0	<i>f</i> -	1
ĺ	Ì		77	נמט	æ	713	11	H/N	F3	M	٠	·	•	A	•	Hi	•	•	•	•	٠	1	5		円	
•	ļ	信		部		手推		美														7	٥	0	Щ.	3
		完										•	•	•								2			-	
į		海												•	•	•			•		•	~		0		Carr
i		從											•	•	•	•					•	1				
;															・ン	ス						3				4
																						. •		5		
	ĺ	ゲ																						0		, K
											讃			美						•						2
	1.5	末	B	1	Ā	徒	讀	1	ŧ							-			•	•	•	2	9	0	円	3
		未																			•			O		Ē
																					•	1	2	0	四	1
				(俿	考)	御	注	攵	は	官	议	Édi	~ ~	•	•	•	•					. •		
	•																									4

「会員家庭の教育につき父親の立場から」等命を得るために」「会員同志の結婚を望み」 々とても有益な幸福な時を得た。 (饭 本 幾 代

パプテスマ。二十七日、北摂箕面山中清流目である、心からお喜び致します。

私

0)

で当てた。 スト 舆 教会 る。 味 う 員の いう未知しの教会を与 0 た成与え どった。 月二 宗教に一ない。 对年新 2 K (する英語)(また)< し私の新本 キの本出し ر د

を

ち

IJ t=

愛の按事聖聖兄一しにのない が方手が霊獣弟段か疑みかろ 私々礼出のに姉階しってっな その間神の存在を、そして更になかった。なぜならいろな事を知った。 教えに背いた行いみで実行しなかったがに疑った。教えに背いた行いかしそれは私が信仰へとひ踏だったのである。 疑い はま、悔い改める事が出れを受けた今日、心は快にれを受けた今日、心は快にれを受けた今日、心は快にれを受けた今日、心は快になって晴れて来た。 おり直と引っ、 間神ら た行為も いろいろ その教 が証詞と導い 疑いは宣言 している。困難があて更に大きな神様のは快情である。多くが出来た。 いえをそ 7.5 そ な教えを知ったれは信仰でえをそしてい 敢て る。 量教師の方々 で歩を進める 取てなした。 て次たはろ

> な 対はら ŋ 疑な のい で る テに

私はれ親は、 との知知は、 との知はな 賴活 で安 K606

、なげまし合いる。困難がある。困難があ 更 そ し し と し な い と し に た た と し に た た た と に た た た か 。 ح 達 だの 的 永 KC 求のの ع IL 80 らて の反目を解決しやまない真理に K あるので

にが

はがに

わて

理 源私は絶 がをは V 対か とう答 づと 的 にもれ Ź り 汖 に人々がな 5 発見する会にあ رَ

なばは なる兄弟へであると思う。 らない、そして らない、そして ると思う。ない、そして そして実践していくべき事であると確信する。ながあるのであり、それでながあるのであり、それでながあるのであり、それでながあるのであり、それでながあるのが存在するのなが存在するのがながあるのが存在するのとなどがあるとない。

た家の始まがいる名の方でま えず。 す。 * \$ 13 の峰に ず。 御 屋に、学無。り根初毎校沙渡無 が降り、昨心命です。 はもう してかけ 彩め実際が す。こう秋季の学却にしまい申訳から約四ケ甲 4 約を 日(十月三日)は、八月下旬にロツキーの学期が本格的にいかれてい 九 *7.*s. さ *L τ. \$ V る 파 キ的でまと

ら一寸雑い な機調ら 会を与 ュ W. Ŋ えら れいに 才 Ч グデン た最初に来てか 机口 œ 市や、レウ、それ以後、 あるタの日曜 * 3 y)& 1 D. ī 多忙 1 ル ŀ ガ ン で ガ で 一独唱する / ン 吾が配かって 神す 市市 迄み

喜販清る米に現をじでくびがをプスン日詞経ケ持 べにし 悦のら事るはしを事かがと少つ 1 17 ロした ح な出思なくきが 12 います からす 永来 まま まま まま からずそのスピリツトを知る からずそのスピリツトを知る いと思います。その一つは六 からずその兄弟姉妹を前にし又、 いと思います。その折に側 でした。何と素晴らしいスピ リ全ての儀式の進行中常に 出来ました。永遠に味った事の でした。例と素晴らしいスピ リ全ての儀式の進行中常に 出来ました。永遠に味った事の はなが、・・・然しモル ないとす。その一つは六 からずそのスピリツトを知る ガいし つ 来 をつら 东 3 V 述 す。 し て 的し たべい等かがてつにな り多 < 話光た ル景でしよう。 水遠の結婚のスピリツ・とても侯のなど ソ を いろ 7 ŀ ・ベス V \$ レ 色 1 世 F. 何の æ W がこと歳を IJ ット ·G す。 文 テ 17 二十五十五の へし又証のある 本 スピ って 7 す プ得し自騎て手で通ビ入任づ様 のたた然い行を、リンロをちに 又素 H 泣最夜 く終 のたた 然い行を 17 歌の美 ると レ時の 御 极事

ク 花 散 と ま い /リスチ 然な声質でスピリットをいたのは頭痛は無く、呼の所で伴奏者と話をしたが、大きい野球のグローでをしたが、後な人が入り過ぎましたが、後な人が入り過ぎましたが、した。そしてしたがははなったのは頭痛は無くいでにたのまれたのですが、 数カプレ なる人が多く ゥ 5 事 倪扁親 イスト ヤ の記している人 ځ V 人之 L 义 シ -17 徒 ٧. 会補 手主に のンで市 デ 験 10 た を致 311 は そ ン には、ほぼは かは見 入 莇を知 AL (J) る わ信用ト いさだして そして の で れって 本 か入って 行行 まし L ス L J; -0 知い 謝の ٠. 固し歌を呼吸 とか感 そして 交 で テ って IJ 所あ テーキ部大会で歌うでしたが無理した。教会のしていますと一人のでしたが無理した。教会のして彼は教会に入って被は対会に入って被は対会に入ったがはいとも楽に又、しました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッしました。ビショッとしました。ビショッとしました。ビショッをが失いとも楽に又、 1 した。 たが 17 ŋ まし 米て る 又ソー , **T**. 六月二十三 六月二十三 ルレイ 手を 大会が ŀ V C 1

老愛第二 あ悦き く 4 定員会の churcantrope Tylinkのですから - the * 5 か境 にや層 あは ŋ ŋ って O M して 贷得 中 **Þ**, Ι は な責任に宣教師 v A そ そ Ŋ ます Ð 言う のよび10g 賁 皆んなっ 事任とを を.0 K ø 長にン

 \mathcal{O}

いは

さ

る想

でし

いもかも

中略 - 皆さんのでそのうち又書 が夜中を大部 を与えら

特が辺 12 05 右 聖せられの手 のれに紙 道て あ は 足いるかであれ、 東京中央支部、大 東 のせる事 飞伝 致道で ガン 攴 な証

かそ 仰 えれ 名 する れしな 打 な な 高 阿 大 高阿 阪 倍市 雌 る。 内 ~ 稙 ځ 支部 独 5 事 12 架た ž 特 はの < 友 ts 全 信根 部 幾 国部 1 Ø) た的 ዾ Ø F 会 7 支部 斌 15 貫 Þ L τ b 7 練 莲 っ 存 ていのに と そ の在 る信酬さ

っに遅の町み ŋ 々未変る阿 そ その た端部 չ し 倍 るによー の地 野 りル支 よい間盤 歩そ る・ 三をみの分四部 名築で産れ九ののきは声、年歴 兄あが、たりなあげ、たりに 史 玄 たげ市にひ を **今** 日 伝 がた 阿現 \$ 倍 在 道 ٤ 野のい にに堅腐 送至実来区岡て

場がで市か線出 *大田た 内なの の住電天阪 高宅車王駅 τ 級のに寺 住並乗駅り っよ地 宅ぶ b 学地北て ۲ 校と開 だ畠都堺鉄 階 そ駅心市にうにをにて を借 が現 りて 在けだ下降のは。車れ 至 天 る王 洋 集誰 こした上寺 P こた静町に 会

> 日学 隘 校 日の に休 日曜 日 で 集会を開るる土曜 日 τ K Ų, M る。 I

Å そ 5 いたこ Ø と韓安のの 表 ú れなな 刨 一瞬っ入 狩 H += りを任を K 出 を各 月二 して P 人 っが る るく一示い与阿いらて百十〇の信人す長え倍る訪近村一い

目

途

9 숙 7

τ.

部長

の主い深人を

ľ

そ

阿倍野支 左より周藤兄弟、アトキンソン長老、桂兄弟 とは教 喜れと分知心会 員 素 会 んて 発 かに 発 達 っ ょ り一展時堂確い端 い股がて で

とに御

心立のし

る

Ø)

雞

い労如た任 らはく れ近回も対 る きい古 し てここ為の で将て代 来いの P 崩黙困を役国そ ろ K る 拓 Þ 省 ず そ 報の Ø

部ン 長は老 ァ と ŀ 新 丰 ŀ ~ 支 ソ

本 扶

当 助

に協

は

会

員 K 惠 Ø ま

水で開い

の 7

支部 4,

る

築 会

会場

となるて建てよれる進た部でて家の開るけ年あ買りら設自くをう歩時にあ売々買く。よ中 のにはいそ 当某べる鞭え藤亥亥 ツ様 を 部十古貝娘 7 ts չ 会 IJ 在 の四参 さのスポ 窊 つ 范 で 信礙年のあん τ 緻 ት 1 烈 る。 0) さ 心教ン tc 砅 な会的水の存 四 13 6 で 퐙 才 n 今 仰 道信在、 ح K で 者者 令 でだ 珽 のの話 あがさ 支 火 る今ん部ののは P ははの出教思周副 阪既で古

イ神者現支四最会の教や 事 員 き本近 ラ チ榴は た。 ž 雅 < ンド 訪 ン省 男 チ立 -|-教 態 ・二信 慶年 の信を とこれ テ直問グは 兄 会 佊 らしを・・ ょ 1 は 弟 で 二年ではなな そは ŋ 中 て ÷ 世ている。熟心世でいる。熟心世でいる。熟心世では五十二名で中の一人である。この方に五十二名で中の一人の一人である。この方に、一人の一組になり、今日の大いの方に、一人の一人である。この方に、一人の一人である。 ング の教遠 ひことについて奴会に再び戻 語 z かにっよ って τ

る。

はで足ら野こ間所以日

しがにて

信人す長え倍る訪

歩片

あのれ支としの上にい

かい

ろたでし設部のI 事を権づま数を うるあて任の設 A のもを神し会叫 Ţ Ø ち投ので τ KU 不 仕事を 今 て 戾 活 る 墳 段 たこ き会た員 P 歌し、まず何 て下 否 やいだ Ø 五をす を设二すは月 調 τ t っ ጷ ŋ P って ず

出事を欲し、 いたは南中央地方部の責任者である筋田俊三口の責任者である筋田俊三口のである。 といえば南中央地方部のであるが明代のである。 い終示任 の特長過を大過 る出はなう弟Mで席証く盛はエ 現

りはが証 レッスンのが証をたて 5 b を 述 τ は強いの *0*) တ に がはは 必 撼 っ 殆 ず 銘証てん と数る出は をを各 与心先の烈 えよ生人なあ

あ

る

うたれ の特長

る。

湉 ts 負指れ か、単 担尊 5 O ימ 大芝 なでは ある 一部 ts Į,

制限をうけている。由な集会場の為に支部活動が、

く由に

· く こ が少なく、 待れる。 **叉信**指 多くの 人々 の助 中行 がにる 広地人 築元の 囲の出 の今 ح

が

Ø ステ 閕 そ 拓 1 丰 如部 を 大 < ഗ 足

M

Ι

貶

男

兄

妹寺長

部 5

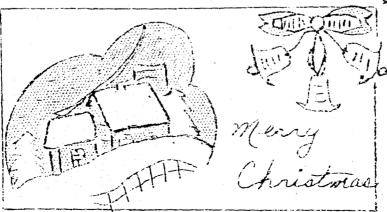
ン段 ١ 二副 删 \mathbf{R} 珠 老 彦 7 会 兄 弟 兄 会長 ۲ ジ 丰 ソ 柱 周

第 郎 会 H 兄 長 副弟 大 村 洋 //>

阿倍野灾 会 員 る 支 支 部 部 智質膜質 1 阳学校 艮 H

雪 第二副会長 記 西中 尾筋 ΙE 充 子 兄 姉 妹 会長 狩

が 著し



扶妹筋会 西 会助さ紙長協 田長会 俊 三規 く山の時田 茄子中 弟 隆 山 次本 妹姉重 妹子 姉 記弟 妹 田第 一副会長 中二勝副 林鈴子 子会 姉長副 姉

末 而 徒 為 B

出 IF. 雄

訳

ピーターソン著

石

IE YT 111 [111]

北のエ

方地レ

地り及

の.よ

あお達あ低り主もの

۲

な同民

うめ言る様がし

とな者神に先

ま人上致は遺はの時しの

か犯しうでヘル体 彼こ間にし主彼に な前ツ玉に民等でじ春たなにイジに北のい地秘に王が拡はは主ゅら。るは1エ住の兄世に は何 7 よ民へ秘に王が抵はは主ゅら 時 うにツ密ェが死が又繁 に反は結キ立ん りま や致神 Lのそまがとの居言子塔で陸はあしさく民のにそ言国りわ採か結に皆 正哲し彼社シちで L しわて等をがま数 まま生も一忠のうのまれ違うはんにたしは活彼生実お人よしては来れれもル いいせ自がつつし年た 歌,王 ま分後に くた。 たっ < 善 様 ŋ っ たの従また彼で良なり すが とは民なり る治 利 し っ を たて い 平 和 は悪いめる時 1 益てた同悪の 土 祝 1 を罪 じい間 地 りす 福 L × 全 はをそよ男に

銷 -1: 窴 て細御曹蛇 る首ジ居 首存等た ŋ O

よの章

ŧ

す 5 t

~

25

ではを王王ぃ

しをそ数

て坂のえ

為

る通る

方も彼古土に なうし彼神教メレん地弟界 も果る正そはさ主ルドでとのの 等ま治を人を居王 しめ通で現り様 あわまの しそる和ま程た人 し落又多ま者でとすき予ま彼りしの彼王はツ行 う等にたで

るん言

波

しれはいの

う達しも をた人でが讃 入ののよ 予予 5 紁 A れ 言言にし王はろこはろ改予 者者命では予うり神うめ言 死 λD 大言と多様 主選達令 L nk dh K 変者つくが貸け違さ恩王いんで .で 龙 し 5 任捕 生 怒達けの地告れをまいのま彼 王 おえ国 しかっを って よた て探 ŋ おい 追 彼しにま まにしはし言んれに飢

たど枯をを予たし他く b れ送見言 りて背 * τ 主主達 だ民 佊 はしなが 飢たる追え。神払 쑞 はえ 始雨さ 艇 ゎ 改めがまれ めま降は て しら地 ŧ L せたず 上 ŧ 觳 K っ ん でけ物児た

得 物

るは

とび

が生

よめ

り食し

る

5

r_

再 る る

ょ

5 5

し

なはま降て

出長にに

来しお叉

よ等

ŋ

致雨らは

なせ主

た。

2

\$5 で ഗ 遣 は主 人 な L が K る た神 此 ŋ ざ 盐 まま 蛇 しは にた今か・0 度 ţ は 渍 n

ょ

追て信し々をし被わこだにた 出民じたが呪ましてを思してまる。 惡 70 * 飢っししてを思 かそ き穴出等で予せけ死てたて若おいっしる 。しし怒またて先彼 にたをそそとにによたし中方か。通これさ従逃り。てでに 下下まめ告て或か これさ従逃 てでに L ささに始け死はまそりにはさ つけ南多瓜多 彼めたに蛇れこ過 集主れてて方 ま言直にてを ž めなて行行ののたのて家 こき地家人家行畜うまと畜々畜きる をし葉面か死通るてるい しまんろ事い神る 想たれで うが たさのとし 冒 がはが したわ当そ死た。れ時れに 始祈地く彼出彼又しと出のまを l りにだ等し等はまし れ時 米でが知た ては飢いたま彼多 り時人た 始予き 省 世等 < そ Ť 主. なめ言んしはんはの しのがの 首ベ 7 らおるて者にた皆でそ蛇た道そ地のま し救神 惟強よ。蛇しこを。がれ方地し る たし救神侮達よ 蛇しこを がれ方地しそ途の

正に飢只しけしを敷ていさ改のっ た。 'n よえシ っ死 工 بح 生てにス悪 ₺ 活主しと王 30 く なて営の を しうへの る \mathcal{U} 神 ま息ッ た さい子も 4 亦 ままを又が な . そ 民 はし除 飢 シ た エ ° いて K Ø え **J**. 家 教 ズこ全族に え まがれ部 P

るように えま ら繕の た民の 神に時 様彼に

滅エガス

存につの彼狩群く K A 彼が飢べ た故に始彼百多し町け人等猟を途 万くてはま々はに破中等等悔き 人々まと南の山 · 。南るが で の 山 で 水 多 で に に の 行 な り に に の 行 5+ た始 b Ŧī. た章 た

と良正しら処り 数 쑣 ďΣ 7 る るである。仮等が傾って言者と うりと 改造 ح 登め か T ろ ŋ 彼 惡 ts むのカしい等くと最はまなのな むのカ

> 故えを知 ŧ 言葉を 信 ¥ す 彼 部 罪 £. Ċ 奺 若 CK) る し ts び 主

トかはそ

 \supset

IJ IJ

· IJ 7 ブ

リい巨ノ

コ

ŀ

をは

改

 $\boldsymbol{\tau}$

5 5

の

間官

5 K

Ė 1 ţ 'n 人々の は n 王 間 Ø に来ました 王 の 許 た。 言 £ れの てアメリ

t

に主 カ

を神

II L

別

く

殺

ð

n

民 V

す

る

よう

し入

制が激死

てた

烈

れれま隊でて心 うし るばしししししに非

そ 区

な

す

下は

Ø

し

しんだが

対

ままコ常れじ

Ž

信 L

て心うし殺

決

し

K ts

٠٠٠

まさめルコす改若たけあこてもメ しれてのりべめし。にろと民王ル ۲ もしよう。 でれるであ いの家族も 7 なしよう。 で発表であり で表表であり で表表であり であり であり であり であり であり リアントル で か と お き も な け れ と ま も な け れ ば も し た け れ ば も **デ**て う と を位に 許治に対ノすめ在しン すめ在し て っ しッの リブ 丈 人 ル 首 市 つ し と ま ス 戦 ア と で で と 領 民 の ま こ し が 闘 ン コ し 王 戦 が 戦 中 し ろ 両っし りにたまがろく ・アント せ彼うルンんはとはズ でし た。 Ø まし Ş, H ・ントメ ん で 戦中し で主云戦はたしなう闘イ。 国争軍がにた が 7 佊 y た。 で 上なる神になったのが リメブル 。のを勢起かが 両中始をりくイ × i リアントメ K 7 n分の者が 戦死-ルを殺そうと 軍の た してその ブルンははト 代 \mathfrak{r} 軍でめ集 ø っ まれ **う**の 戦闘 佊 さま をてが て殺 負メ が誰 まめ L はリ 彼れしも 開殺前 てたしった 御 よし 拒強民は戦 復 N の言葉を りた。 いさに 突

軍政のました。

指弟。い

L P

を兄た戦時番ブンと 指弟。い、高はト言

たー

ŀ N 11 重 傷 な

あト 2 1

てれっ

まいて

なり

でン

b

た

でがるの小メて終はがちき迄たてさはと止し彼イがのをとあ役びけ
戦攻よ闘さル刀日打勝又ま提。戦しコ書めたのテ殺妻数きりし出死いめるはなけを戦返ち或し供コを出りいる。とルさ子え彼そ始さ人 とルさ なはを戦返ち或し供コを出りいる 子 え彼そ てな彼っかれ選てはのめれの 聞、枕いしま時たし の彼に夜てしは。°よ भ गः 7 す よアめなン手らはた彼うンるらト紙王シ悪に たを見戦傷 附の段に居たコ或近民まはり。り時 1 にの餘 ま争が **と**ト でそメを位べい 近民ま はり り時 云をい LK ŧ あのル送をに道 翌ま戦 アははメ 5 知 ラ にを τ L た山築とめ 朝 し闘ン ろ民がりゆ若を ラたマ シセル り約 た うの目まづし トズずは のたの戦。被 そて 日 で ٤ 7 慩 TII ŧ L シ改をし百 波メ の戦目と 生分し る 韭 と コ 戦 L し呼り闘兵はル軍争分答命のたでスめ思たはアに士寄の隊はのえを生。あが始出 た万て つ えだ の彼たて病 備達せ軍が尚生ま教命シを慰めし彼兵は損米床はら れン でそ写ら こ隊れ此るトえはて隊勝続命しっをズうをまては士そ失たに回進

> ル軍又はわし争 るまとさ翌年は彼 六つたは --リました二十 十は九 ン生 た。 きは者 ŀ ズ目

録費の彼つおはっそルシはか弱りズ殺 を等よ告イてしはズ刀り 見のりげテしてたをに弱 か方時コの してたをに弱ましつれ日は三等 くに只り板 そま悪出にルま彼っ殺よりでたした。 行たそま史彼れエ き事のしをのてレ た事っ民ううさをしょ かくす血 らル っ で

> を る

> > 神

3

ţ

*

7

ŋ

カ

レ主

此てた市税来 のいよにけ 人 る 5 到てし Þ のに造南た とな他 第共 見の其向コ にま 民 処 二びは九住しがでてア みた。ま そ イ歩 Ø テ し彼地ルゼメ たはをがう 死所予へは ぬ有言

۲ トラアイ 選び けい ts O る 民 神 はがさ 他位ま の改は 民めイ 給新竜ま なテ かル 第 5 っに 章たい た若らし

れしえに義にルさ主らうすしつ地なエ たら就の住かま なれとでてぐ れて 家むレはるた告あ違民 5 言こま考族正ムエ神時けろわとけ

7

τ

の主ジ に人し王は様は持まか 7 連にたせ救に主れ対。デ主仕な っし l た。 主仕なた 去し当キのえる H て時ヤ生る神めり 24 ラ で 5 戦べのれ よさ る 1 Λ と いピ時る うま人へ のェ 口代約ににでイ .T. ダニに六教仕あは子 7 居ヤヤ住百 ええり多を 人人ん年ま家 ŋ 主 < ま等がで程し族 し の た財で しをユ居以 たに た捕ダり前 Þ τ 関ヤま悪彼同彼をり及



Ŧ 米 若

なおて り許 達まし のしにをヤな 中たな奴人け りでとにば - 1 あし彼主 で ハろ て等な あ 1 う連のる りはとれ町科

米居そがもをまくてをはのっはハこ及な立柱祈民 りの天明見いの主見主上と主ィとびるちがりの或 ま人よかまて天なせなん うなはをそ神ま下を生日 しはりるし神便るらる横さる大おのさし リ た十降いたを造神れ神われ神変示民またててを さがさま さりてさなしには てに彼ん主ましまま急まきにや彼彼 ま数イ の米包はびながたにしいの且ながにが使す よたでみ恐りてエ見の まひしるそ とに主 ののれる歐神の波 家たれま起ルて っ ÌÌ ts ts さ位はてそにまま しるせいの天る る こ婚のした。 まに天他 よ神 主岩 でレ 従まあ陽いを坐がのでっ力た。あムすのらうさえしるよるとり開示又てに。りろのと上火にま 降従まあ腸いを坐がので た人りのり多け現彼床あ彼しう町主にのおに

其まにい家は告愛し彼で以出なダ見間彼まるえ又か惡又に本本 のになた族御げさた等石前しおヤせにのしで捕兵れいそ関をを他忠りまを目にれ。はをにまも人ら行床たあ戯士で為のし開与 まま伴分なま主りぶ米し続遠れきか。 ろと遠あにエてい つがりしなしつたたけはたまら彼うしがるはルて円まてるハサ子。て最示し立はとて町のぼサ た好て召まてるハナナ っれさビ入読れム ニてまで町野に1 しあはかエ 1とたそハす笑 るを し等町をるにてたろそれル ハ致がうイ としたにの見の違民 怒彼 。彼民てをれを 꺥 て彼さにイレ今とよ怒彼。彼民でをれを彼と民
おのまおをまやしりりがユのの後見去捕は慰が

宝で レ荒 べま設行のれた等でした。 でなにを背 るお捨に神 金 銀幕 さげおの

たのっ

人を

にを見栄太て

活ぶ追彼1等1数しをりこけ行い な主 寡る はのた リ川 さ t まぱ Z ハの イ谷造はと し問っ

うのてサは

あ

レそ

恐ない イし與界少おんるニれめたレにつれ等マのフわて設まで 张 時 1 **戻つ出はン父アれ主け** るぶし彼と親 事やた等レの をき尋のミ教サを まる彼はうでイレ符なを父ユえム ちが不親エをは こら平がル信正致がま らどるにはくエが町に彼はじしし彼には間し せう佛致そこルれの思等叛まいま等捧そにま うかの様てすさしのれがま楽っをきし少しのけこ天 とれ家は下るまま父をつしして荒また年た生もで森た旅さ語そ族正さ様にし親たぶたいぶ野しがで。命の祭を。をえりこはしいに主たをしや。生っにたレ彼ニをを増張そ続て

まで世いと望な 力中年祈で神して よら若。なでにり居さってんしょく ちばし主民最告まっのたり に彼彼なと良けしれがイ云のハと るなのて 神る土、 しか等主通彼はき る土 た知になり等強ユ さで地波 あにと ° らどるには ろ 等 そ 神 せ う 荷 致 そ は と 1

> っをし怒とうフ告ム っめ フ をさて 步 りまるニ は兄ま云そ

うお主我なり等はの神なうニあフ伴なあそ荷行持としここにをサ に前なにいおは彼時さるとエろアっるろのさ る級で削お等値ま神云ルうイで神ら忠まで害なりを神くあの前を等はさわは。と約さと実はおしか始信 おさ啓祈彼 ま処れののは告の示りはたま 栄レ遠行彼な変 罪でとすで家たれり主のイ間はしいる二族。る彼な処のこ

1

٤

子のひは云まれ共けそ束ま 孫子と私わを を振いにれ怒しでど家地更け為に致主事し あ若治が呪叛まらた終も族ににに大よしなはたっしめ私いくこせ。柴ン造行彼な祭りまるこ。 L め払い くしせ 質起たおるになったた彼し」ははり祝彼し神」彼り祝彼しかでたた彼し」はきはり祝彼し神」彼り祝彼にたち 類以 あっぱ なっぱ ない マ 楽処の しさ 語。ま アがに るせ 之のとか て の 見 で の し さ 語。 5 を子が な呪 し採出いい。、まはしレる二族。る彼な処のこれてが米限彼私そた主ょミで1を主ではるへ気う対 よし採出いい

出 米 卦

7.



述 きてい

+ る 回質 のかニ 間あ + 7 5 をる す」と答 地四 さ小 球時れ学 は間た生 疲か時露れか、露 、「地球は地軸 いつて一回転して で汗をかき、そ れれてつ 文 来る そ 7. * い中 \$L 4 心か が ĽŠ ٤ V で毎 な

るたはら役 会時 3 、最がが彼は人満谷如、ち谷や せのイと 各々に るがんに 6 IJ 0) ・にしたといってある 話 自 に身 i.t 予 オリンコ されたのである。 されたのである。 されたのである。 されたのである質問をした。 ある質問 になる 年じめ な質問であつ たなる 年じめ な質問である 変問に対する答を思い起 がたる 年じめな質問をした。 ある質問をした。 ある質問をした。 ある質問をした。 ある質問である。 たのであるなる生じめて

<u>.</u>† 表呼ョ潮 後如 てはちにき中い即潮あ質に 潮のの間 V 即圏の人がには彼をこれのため の引吸球何ョル もかせた 17 生とつので あ潮 よ つて でなった。古います てすから、だんに引 を引 き球 起 ジ Ø 产

4

つ

しの

シ 僚

邢

つて谷えたの VZ. 江 C ようだ

> スっ ŀ ح のは 0) 姿の 話る丛 自 的 さは を 告教 之 神 ぎっつ ļ ~ た信じ C した 1 空 ると -tt ٢. ユニヤ そ こ云つて せ ス 2

悠る よ太彼っ兄る で は サカが いで同情い 4, KI たのに数ないで、というないので、というないのでは、これも 様子をまのあたりに見たの はいのでしよう」と云つた でしよう。体なく手足なく、 でしよう。体なく手足なく、 でしよう。体なく手足なく、 でしよう。体なく手足なく、 ないのでしよう」と云つた。 ないのでしよう」と云った。 ないのでしよう」と云った。 ないのでしよう」と云った。 どうしていた つちは 称ち ん様 はを V に驚くのは云と信じません」 よう。 神て で否定する。 そ と で る

彼本 は当 実し続にをニのか け嬉信ヤ 神したし とは、 あ 様で娘師 1 でする神は私もしまつた。 KI 心絶 ょ 対 りに さ信信 んじじ ふ

> る教の にな信いと不い 能 であり、 に考えてみる をとで官 をとで官 し、 であり、 し、 であり、 そろうな ひてい ۲ ニ 0 ると云った。 5 らん Ľ である。 不日聖教師 なら 幽 がかり、一体会 寒 5 旲 7 り神なた。 全るた智生 つっ とたとどれじた く。心んをな。 全け宜く

からん

しそはる拶のラ行たすなしいよし玄イつとか ۲ つつても大したんとすまして答るが。小さい時に ように 5 した対 た。 まって 7 クティット大し 人「ウワタルに」わからに 「わから し又 ス・ジ とえたし 人気者 にけ 1 న క クそシの L h ス ラ彼 3 が な宜数 チ 老を ウ ワ 人 か 1. 1 明从在 0) \mathbf{L} 云 がえ ٤ し彼き法たけて つ 泉ど まがてい た。 挨 -C ζ って挨家トにつま a 言 拶

ら

4

知

支

白

伝

道

本

部

用

住

抄

沙

年

を

向

乞

る

M

あ

た

り、

さ

5

1/

発

瓞

を

圳

-

べ

75

5

لح

思

S

-}; c

Ó

年

 \mathbf{L}

D

S

メ

ツ

セ

زز

ヤ

1

叹

赳

徒

0

道

離 読 0

部 個 場 合 を は VC 円 IE

込み 各 支 部 VC 用 لح 全 意 ま 7 あ す 0

所 部 用 申 保 紙 存 赤 氏 名 白 を 書 が 通 5 7 1/ 支 漢 部 字 長 VC 提 階 0 す 0 書 出 る 7 لح K 所 口 さ 定 1 0 マ

0

赤

公

字

で

申

او-認 H 徒 祁 さ \emptyset 道 11 る は 場 睢 今 合 は 沙 種 以 後 岨 各 便 人 物 認 0 長よりお 住 ПI 肵 ź ま 申 詣 7 值 中 关 で 致 6

お

do

す

信仰は死の淵にかけられたる

北

部

16人

東

1公

道

本

末

H

徙

1

工

ス

IJ

ス

ŀ

信の如きなり。

昭

エドワード ヤング

Æ

な写具は

をお

送

ħ

F

さ

 t_{Γ} 支部

ため

O

変帯の活動を指導へおい

助原

Ų) 3

-1-

を淵

ろ

た め最

色

疋近

り

金き信仰は

ŧ の

たい お話

"恐怖"を超越する。

たちは「末日世へンソン長老の

の

を

承つ

選で

はお

れるたと

た幸払

型

徒」として

をし

みじみとい

ぜさせら

す。

ح

Ø

を繰返

して読

K, n

で 玊

だ

ジョージ マクドナルト

、老を

えて

0) 水まし

iii na

膭

大会の

4 道

出

来

それ

%I 敁

ベ

でン

0

lit

良

迎が

铧 十二月 I C 価 57 + 日 発

発 編 発 北宋行集行 且所入 部型 挺 1 頭高米 叔 部木ル矩 キ 港 キ ナン ス席 道ト 布 五 · 設会 配 会 尾 町 ۲ 郎 ラ + Ш

反人

省地に

て奴い

谷 <u> 4</u>-汉

支部 Ź 栗 .4

٤

扱み

るプ

U

いを

た終短

73

ある

ح

を

ル ベ月

ルは

떩ス

0) 0)

余月

規で

になく、

17

IJ **が**

ス

グ

ラ ム

を用意してド

発

行

所

徒

誕イ

部会

尾

末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条 (1956年8月校訂、承認)

- 第 1 条 われらは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず。
- 2 条 われらは、人は皆各々其身にてなしたる罪に対して罰を受け、アダムの 咎に対して罰を受けざることを信ず。
- われらは、キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀 式とを守ることによりて救われ得ると信ず。
- われらは、福音の第一原則と儀式とは
 - 第1、主イエス・キリストを信ずる信仰
 - 第2、悔改め
 - 第3、罪の赦しを受くるために水に沈めらるるバプテスマ
 - 第4、聖霊の賜を授かるための按手礼
 - なることを信ず。
- われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権 、成ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。
- われらは、教会には、初期の教会に在りたると同一の組織、すなわち使 徒、予言者、監督、教師、祝福師等のあるべきことを信ず。
- 第 7 条 われらは、異言を語る力、予言する力、啓示、示現を受くる力、病を医 す力、異言を釈く力等の賜あることを信ず。
- 8 条 われらは、正確に礁訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず。ま たモルモン経も神の御言葉なりと信ず。
- われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示し たもうことを信じ、なお今より後、神の王国について多くの偉大にして 重要なることを啓示したもうことを信ず。
 - われらは、イスラエル人は、文字通りに四方より集合し、その十支族の 310条 元に立ちかえることを信ず。われらは、シオンはこの(アメリカ)大陸 に建てられ、キリストは御自ら地上に王となりて、治めたまい、地球は 元にあらたまりて楽園の栄えを受くることを信ず。
- われらは、自らの良心に従い、全能なる神を礼拝する特権ありと主張す。 第11条 また、われらは、すべての人々にこの特権を許し、何所なりとも、如何 様なりとも、または何なりともこれを礼拝することを妨げず。
- われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を敬 第12条 い、守り、支うべきを信ず。
- 第13条 われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高徳なるべきこと、およびすべて の人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べ く、われらはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。すでに多くの ことを堪え忍びたれば、あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし 何にても、徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒 むべきことあらば、われらはこれらをたずねもとむるものなり。

ジョセフ・スミス